

## 進路だより 9号



## ◆センター試験まで あと50日

## 3年生よ、このままでは終われないぞ

## — 『自己ベスト』を更新して年を越そう! —

ついに、センター試験まで残り50日となりました。続々と返却される模試の結果を見て、焦りや不安を感じている人も多いかと思います。現役生は試験当日まで絶対に伸びていきますから、ここであきらめてはいけません。

## 特集 50日目の戦い方

## 1 学習に関して



## ① 「基本問題」を取りこぼさず確実に得点する

センター試験で一番ダメージが大きいのは、「基礎・基本知識」を問う問題で失点することです。ゆえに、あやふやな基礎事項は早期に再確認し確実に定着させておくことです。最新のマーク模試においても、各自、取りこぼしている基礎問題がきっとあるはず。各科目で、こうした問題を、あと1、2問ずつでも取っていければ、5教科7科目の合計点では、軽く50点近くの上昇が見込めます。これで合否判定が2段階は変わることでしょう。

## ② 模試とセンター演習の問題をキッチリ復習する

さらに、これまでの「模試」と学校でのセンター演習で用いた問題を、きちんと復習すべきです。特に、正解率が低かった問題に関しては、しっかり時間をかけて取り組み、理解を完全なものにしておきましょう。新しい物にあれこれ手を出すことなく、今、手元にある教材をしっかりとやり込み理解を深めた方が効果的です。

## ③ 50日かけて苦手分野を克服する 橋の教師を活用しよう

模試の「分野別、設問別の得点率」から、どこが自分の失点のポイントになっているのか把握しておきましょう。まさに、そこが最重要強化ポイントになります。その分野を強化することで、総得点を上げることが可能になるのです。50日もの時間があれば、十分、克服が可能です。自分一人で困っていないで、橋高校の先生方を有効に活用すべきです。

④ 理社の追い込み + **数学・英語の強化**

ここにきて、理・社の成績が伸びてきましたが、まだまだ不十分です。特に、理系の理科(2科目)と文系の地歴は、向上の余地が十分に残されています。ただし、英数国の勉強時間を減らしては何の意味もありません。今後、配点の大きい英数国3教科の得点が上がってこなければ、いくら理社を強化しても目標に到達できません。特に、「数学」と「英語」は現時点での成績では大変心配です。

## 2 受験準備に関して

## (1) 12月の『三者面談』で志望校を決定する



## ① 国公立大の「出願先の組み合わせ」を作成する

## 前期日程だけでは × 『後期日程』・『中期・独自日程』まで!

本校の12月の三者面談では、毎年、生徒の希望とこれまでの模試での合格判定等を参考に、最終的な出願校の絞り込みをしています。そして、国公立大志望者に対しては、センター試験の得点に応じた出願先の組合せのパターン(「前期日程」+「後期・中期日程」)を3つ以上設定するよう指導しています。そして、センター試験後には、あらかじめ設定した出願組み合わせを基にして、実際の出願を行います。その時になって、慌てることのないよう、12月中にしっかり検討して準備を進めておきましょう。そして、後期日程までしっかり戦い抜きましょう。

## 国公立大入試 二次試験の出願先の組み合わせモデル

## ● 第1志望 (⇒ センター試験で目標点を越えた場合)

前期日程：A大学 ○○学部 □□学科  
後期日程：B大学 ○○学部 ××学科

## ● 第2志望 (⇒ センター試験で目標点を少し下回った場合)

前期日程：B大学 ○○学部 ××学科  
後期日程：C大学 ○○学部 △△学科

## ● 第3志望 (⇒ センター試験で目標点を大きく下回った場合)

前期日程：C大学 ○○学部 △△学科  
後期日程：D大学 ●●学部 ▲▲学科

( 前期日程の難易度ランキング A>B>C>D )

\*他にも、一部の公立大(高崎経済大や新潟県立大など)で実施している「中期日程」や「独自日程(前・中・後期日程とは別日程で併願可能)」の大学の利用も検討しよう。

## ② 私立大の受験計画を作成する

各大学の募集要項で、受験科目、入試日程(出願、試験、入学手続き)、試験会場、定員等を確認しておきましょう。そして、自分の実力と大学の難易度とを考慮し、日程的にも経済的にも無理のない受験計画を立てておきましょう。

## (2) 「願書(募集要項)」・「宿泊先」を手配する

一般入試の「願書(募集要項)」は、各自で取り寄せることになっています。受験する可能性のある大学のものは、早めに取り寄せておきましょう。地元の福島大に関しては、あらかじめ、進路指導部で多めに取り寄せておき、無料で配布する予定ですので、個人で準備しなくても大丈夫です。

なお、受験時の宿泊についても、各自、条件の良いところを早めに予約しておくことを勧めます。特に2月の私立大入試が集中する期間や国公立大前期日程の日は、毎年、取りにくくなっています。

## 特集 1・2年生からの推薦・AO入試対策

# 国公立大の公募推薦&AO入試

## 3年生になる前に知っておくべきこと

国公立大においても、公募推薦やAO入試については、年々定員枠が増加傾向にあり、重要性が増してきています。実際にこれらの入試を利用するかどうかは3年の夏以降に決定することになりますが、そこで初めて準備を始めたのでは遅すぎます。まず、3年生になる前までに、これらの入試に関する基本的な知識を持ち、必要な準備をしておきましょう。

### ■募集定員が全体の“3割”へ拡大する

### 一方で、後期試験廃止 & 一般入試の定員の削減も進む



年々、国公立大の推薦・AO入試の定員枠は大きくなる傾向にあり、今後は全定員の3割にまで拡大していく方針です。難関大の1つである東北大でもAO入試が行われていますが、毎年のように定員が増加しています。一方で、一部の学部を除いて一般入試の「後期日程試験」が廃止され、「前期日程試験」の定員も年々削減されています。これにより、一般入試で合格するのがさらに難しくなっています。ゆえに、国公立大志望者にとって、公募推薦やAO入試を活用することは、今後、大変重要になってくると言えるのです。地元の福島大学では、今回の入試から、「食農学類」の設置に伴って、既存の4学類の定員が削減されました。さらに、「公募推薦・AO入試」の募集定員が増加され、前期日程の募集定員が削減されたので、今年はかなり大きな影響が予想されます。

ただし、これらの入試に合格するのはかなり難しく、事前の周到な準備が必要になります。出願に必要な書類（「志願理由書」・「自己推薦書」等）の作成や面接（自己PR、口頭試問を含む）・小論文（英文読解、データ読解、学力（英数理）テストを含む）対策など、推薦・AO入試のための特別な準備をして受験に臨むことになるのです。さらに、不合格となる可能性もかなり高いので、一般入試に向けての勉強も並行して行わなければいけません！

## 1 推薦・AO入試の仕組みはどうなっている？



### (1) 推薦入試とは

「推薦入試」には、①「公募推薦」と②「指定校推薦」の2つがあります。どちらも「学校長の推薦」が必要で、校内選考によって決定します。また、調査書の「評定平均値の基準」があるのが普通で、国公立大の場合、「4.0以上」とする大学が多いです。さらに、各高校から「出願できる人数の制限」もあります。選考方法は、国公立大では「センター試験を課すタイプ」と「課さないタイプ」があり、独自試験は「書類審査」と、「小論文+面接」が主です。基礎学力試験（英数理）を課す大学も多く、小論文で「英文読解」が含まれることも一般的です。

#### ① 公募制推薦

全国どこの高校からも出願できます。ただし、県立大などの公立大の多くは、その県の出身者に限定されていたり、他県出身者は1校当たりの出願人数が制限されたりしています。

#### 例 福島県立医大 看護学部

出願基準… 福島県内の高校のみが出願可能 ただし、1校あたり3名まで。定員30名  
試験内容… センター試験は課さない。「英文読解」と「現代文読解」の総合問題、面接試験

#### ② 指定校制推薦（私立大学）

各大学から指定された特定の高校の生徒だけが出願できます。さらに、一部の公立大を除いて、私立大学が対象です。大学と本校との信頼関係の中で行われ、大学の要求する基準を満たして推薦された者ならば、基本的に合格します。

本校にも、多くの大学から指定校推薦の枠が来ていますが、有名大や難関大からのものは少数です。ゆえに、本校では、目標を下げて安易に指定校推薦に走ることをしないよう指導しています。

### (2) AO入試とは

「AO入試」は「アドミッション・オフィス入試」を略したもので、一般的に「自己推薦型」が主で、学校長の推薦が不要です。出願条件としても、評定平均の基準値がない場合も多いです。さらに、一般的に、推薦入試よりも早い時期に行われます。出願・選考の日程が、夏から始まる大学もあります。選考方法は、調査書・自己推薦書などの「書類審査」と「面接」や「プレゼンテーション」が主ですが、大学によってバラエティーに富んでいます。大学の講義やセミナーに参加し、その後にレポートや口頭試験を課すパターンや、小論文や学力試験を実施したり、「センター試験」の得点を利用する大学もあります。なお、入試の詳細は各大学の募集要項を見て確認しましょう。

### ★東北大学の「AO入試」を有効に活用しよう

東北大でも、経済学部と理学部を除いて後期日程が廃止され、AO入試の定員枠を拡大する方針です。一方、前期日程の定員は削減されていくので、AO入試を利用しなければ明らかに不利です。東北大のAO入試には、AOⅡ期とⅢ期という2回の試験があります。東北大志望者はAOⅡ期、AOⅢ期、前期日程をセットで受験するつもりで準備しましょう。

[AOⅡ期]

センター試験を利用しないタイプです。今年度からは新たに、法学部でも実施されます（前期の定員は減少）。工学部、理学部、農学部では、小論文の内容が、数学、理科、英語が中心の試験なので、一般入試に向けての勉強で対応可能です。特に理系学部の希望者に勧めます。

[AOⅢ期]

センター試験を利用するタイプで、自己採点後に出願できます。そのため、前期日程合格者よりもセンター試験の得点率が高くないと合格できません。今年度からは新たに、文学部と理学部（数学科除く）でも実施されます（前期の定員は減少）

本校では、昨年度、この方式を利用して、医学部保健学科の看護で1名が、一昨年は、経済学部1名、工学部1名が合格しています。

## 2 3年生までにやっておくべきこと

- 『評定平均値』を上げる（東北大AO入試の出願基準は「全科目平均4.3以上のA段階」）
- 部活動やボランティア活動、探究活動、体験実習に積極的に取り組んだ人の方が断然有利。
- オープンキャンパスに参加し志望校の情報を集める
- 『話す』・『読む』・『書く』の3つの力を鍛える+社会問題への関心を高める
- 『英語外部検定試験』に挑戦する（指定校推薦の出願条件に「英検2級」という大学有り）
- 3年間の『欠席・遅刻・早退』を減らす

→本校の推薦を受けられる基準は「3年間で各14回まで」